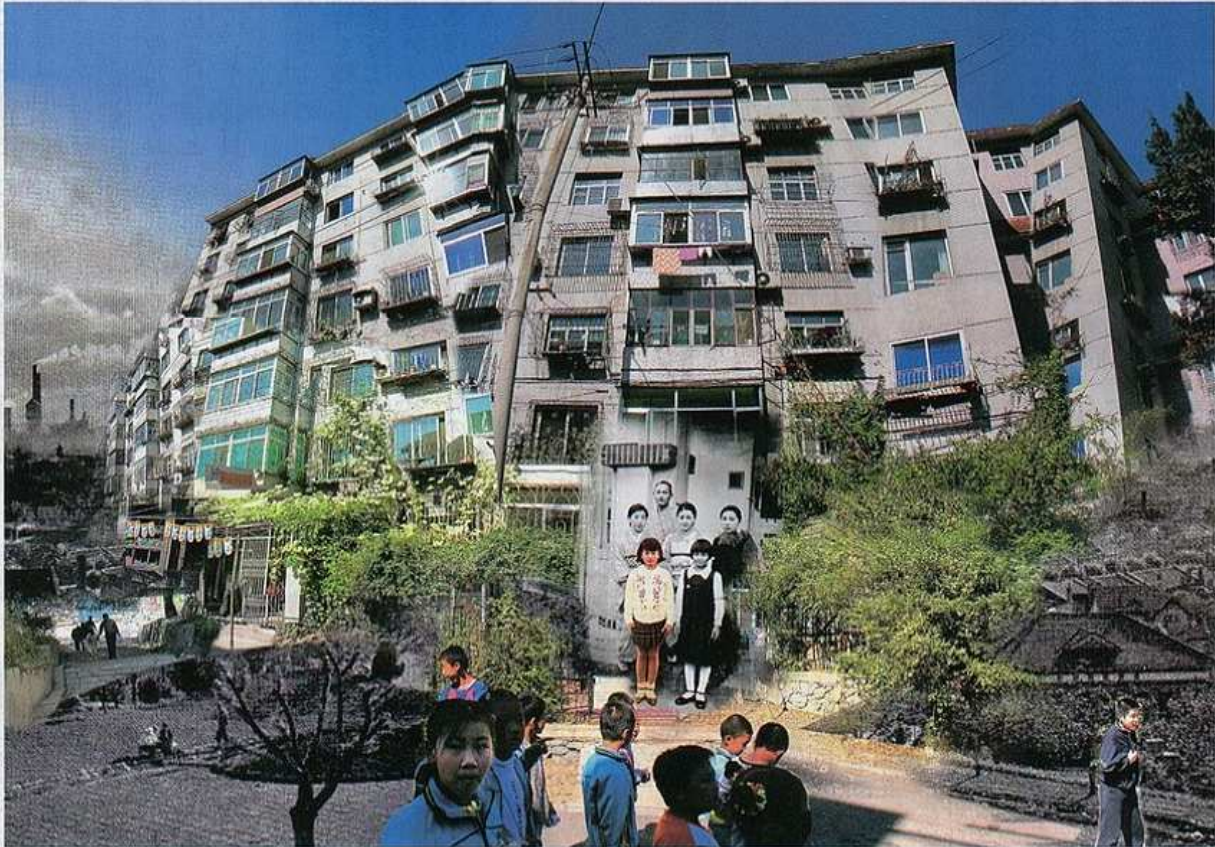


佐保会兵庫県支部だより

第 33 号

佐保会兵庫県支部事務局 神戸市西区伊川谷町潤和1425-15
〒651-2124 TEL・FAX078-975-0063



笠木 絵津子(S50理物/S52院理物)
コンピュータ加工写真 無断複製厳禁

私の奈良

伊賀 正子(S16家)

奈良女高師授業開始日の明治四十二年五月一日を開校記念日と定め、ここを起点として本年五月一日創立百周年を迎えました。この記念の年に、佐保会兵庫県支部だより三十三号の編集が、西播磨地区に回ってきました。県内広範囲から「私の奈良」をテーマとして原稿を戴くことが出来ました。

私は小学校の頃から憧れた教員を目標に、神戸に住んでいましたので、県立第一神戸高女(現在は県立第一中学校と合併して県立神戸高校)から奈良女高師に入学、家事科で学びました。文・理・家の生徒全員は寮生活が原則で、衣食住の生活を実践し、文部省から命じられた赴任地へ着任しました。在学中は授業料免除、二年間の教職が義務づけられていました。

四年生の夏休み、文・理・家の生徒は積み立てていた旅行貯金で、広部舎監が付き添って十八日間、朝鮮・満州を旅行しました。各地で卒業生が歓迎して下さり、自宅を開放して間取りや生活作法を話して下さった先輩もありました。昭和十五年十月二十八日から十一月一日、紀元二千六百年教育勅語渙発五十年記念展覧会のため授業休止。広部舎監の引率で、一寮総代の数学専攻大田さんと四寮総代の私は、東京で開催されている二千六百年記念行事を見学に行きましたが、終了していて雰囲気を感じる事が出来ませんでした。夜は広部舎監の友人宅で三名宿泊させて戴き、翌日はバスで都内観光をして奈良へ帰りました。併設女学校の教育実習が始まりました。私は台所の授業を公開することになり、指導教官の越智教授が近くの住宅台所を見学させて下さり、懇切に事前指導を戴きました。

土曜の放課後や日曜日は、同舎の友と外出して市内を散歩。家事科の勉強にもなりました。

四年間、過ごした奈良を、高齢になっても鮮明に思い出されるのが嬉しいです。

講演

創立百周年を迎える
奈良女子大学の現状と
将来展望

奈良女子大学教授(前学長)
久米 健次氏

まず初めに、五月一日で創立百周年を迎え、記念事業としての①記念式典②基金の募集③百年史編纂の三つの取り組みについて話されました。また、百周年に華を添えるという夢の実現に向け、三年前からプロジェクトを立ち上げ、この度、今西商店より念願の日本酒「奈良の八重桜」を販売することができたことも紹介されました。

次に、奈良女子大学の現状の話に先がけ、日本の国立大学を取り巻く状況について、特に平成十三年の遠山プランの衝撃について説明されました。その中において、国立大学の法人化による人事、財政面の大きな変化や目標評価管理の導入による取り組み、そこにおける苦勞などを具体例をあげながら説明されました。このような状況変化の中で、奈良女子大学は全体として小規模ではあるが、着実に実績を上げ、国立大学の中でも評価の高い大学として頑張っている様子を話されました。奈良女子大学の状況としては、新しい時代における女子大学を指した新たな教育プログラムに基づき教育の取り組みについて説明されました。最後に将来展望として、特に①人と人とのネットワークの拠点としての積極的な取り組みをする、②女性研究者育成支援—女性教員採用促進に力を注ぐ—という、2点を強調されました。

講演後、女子大の存続意義や女性教員の比率等についての質問がありました。まずは実績をあげること、理解者を増や

すことが女子大存続において大切であり、また、女性教員の採用も30%を越えることを目標にしているなど質問に答えていただきました。久米先生の奈良女子大学に対する熱い思いを終始ひしひしと感じるとともに、日々のご苦勞に感謝の念で一杯になった講演でした。(名定記)



母校百周年記念によせて

支部長 山本よしみ

五月一日は奈良女高師と奈良女子大学が歩み出した記念日である。佐保会の仕事に関わるようになり、奈良の地に足を運ぶことが多くなった。やはり、四年間を過ごした青春時代の思い出の地は感慨深いものである。

一日は佐保会主催のホームカミングデーである。先程実施されたアンケート調査の中間報告が行われた。分かり易くまとめられた図表に同窓生の思いが明快に示され面白く共感を呼ぶ報告であった。後半の報告が待ちどろしい。午後は佐保会のコーラスが土田景介氏指導によって、日頃の練習の成果が発表された。秋里さん、寺田さんの姿が見られ嬉しく思う。その後柳田紀美子氏のインド舞踊である静かな動きと踏み鳴らされる響きのなか

に秘められた心の綾が表現され、インドでの修業の成果が偲ばれた。

二日の大学主催の「創立百周年を祝う会」の午前中は佐保会作成の「映像で見る母校百年史」が上映された。百年の歴史で刻まれた母校の姿が見られ、五十年前の大学生活に引き戻された思いがした。「一筆自分史」と併せて見ると面白い。午後は大学生、大学院生、留学生のリリースビデオがあり、みんな夢をもって社会で活躍しようという意欲に溢れ、真面目に取り組んでいる後輩達は頼もしい。その後、「高度な女性人材育成の拠点形成に向けて」のテーマで久米健次コーディネーターのもとシンポジウムが行われた。姫岡と子氏の基調講演のあと、第一線で活躍されている中道貞子氏、石原康子氏、北原英里子氏、山岡鈴子氏の四人のパネラーが現在にいたった経緯と抱負を語られた。難題にもくじけず、活躍されていることに敬意を表したい。しかし、在学生の参加が少なかったことは残念であった。何らかの形で今日の内容を伝えたい。締めくくりに、演奏と語りで「奈良女ストーリー」が音楽の調べと映像に合わせて語られ、小倉遊亀画伯の姿が写し出された。

夕暮れに開かれた懇親会には大勢の学生の姿が見られ活気に溢れていた。ビールときなこ餅で腹の虫を押さえて帰路に就いた。記念館のライトアップは時間の都合で見られなかったが昼間に見た記念館内での学部紹介と「鳥毛立女模写屏風」等の正倉院御物の展示は興味深く面白かった。

二日間の記念行事に参加できたことを嬉しく思い、忘れられない宝物となった。準備にご苦勞いただいた方に心からお礼申しあげる。

平成21年度 新入会員名簿

学部	氏名	地区	学部	氏名	地区	学部	氏名	地区
文古代	濱田 見子	明石市	理化	萩原 愛規	西宮市	環衣	安積 由佳子	姫路市
文比歴	宮脇 麻衣子	神戸市灘区	理化	林 尚佳	明石市	文化	香川 真有美	三田市
文社情	倉本 裕美子	西宮市	理化	速水 美帆	西宮市	経営福祉	石原 あゆみ	たつの市
文言情	巽 侑子	芦屋市	理生	森崎 麻貴	神戸市西区	環住	小島 春香	西宮市
文日亜	古河 園生	神戸市西区	理情	井上 由美子	三田市	環住	小城 地園子	神戸市西区
文日亜	松永 有沙	神戸市灘区	理情	徳岡 志保	多可郡	環住	渡 綾子	神戸市垂水区
文人関	高木 えりか	川西市	環食	来馬 恵理子	加東市	博前環	篠原 秀子	神戸市灘区
文人関	宮川 さやか	神戸市西区	環食	寺西 美貴	三田市	博前環	杉本 香織	姫路市
理数	松本 鮎佳	南あわじ市	環食	坂東 範子	尼崎市	博前環	尾野 文美	姫路市
理物	池野 なつ美	奈良市(県外)	環健	長谷川 愛	小野市	博前人	東田 優子	三田市
理物	米山 知佐子	三木市	環衣	後藤 友香	福岡市(県外)			
理化	田中 春菜	神戸市須磨区	環衣	浅田 真奈	加古川市			

楪 (ゆずりは) の 会

平成21年・22年 年間行事予定

月日	内 容	会 場	時 間	講師(敬称略)	備 考
H21.11.26(木)	バスツアー 紅葉の宇治を訪ねる	平 等 院 源氏物語ミュージアム	8:30集合 三宮東急イン前		費用 5000円 当日のみ参加6000円
H22. 2.25(木)	ランチコンサート	ドンク(阪急・岡本)	11:30~15:00	土田 景介 田中 靖子	会費 3000円
3.25(木)	書道	神戸市立勤労会館	11:30~15:00	川口登美子	小筆、半紙など
4.22(木)	バスツアー	こうのどりの郷公園 フラワーセンター	8:30集合 三宮東急イン前		費用 5000円 当日のみ参加6000円
5.27(木)	文学	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	秋里三和子	
7.22(木)	食文化 「食べ方は生き方」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	織部ミチ子	
9.30(木)	古典を楽しむ 「平家物語」	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	林 茂代	
10.28(木)	美術鑑賞	神戸市立博物館	13:00~15:00	学芸員	解説付き鑑賞
11.25(木)	手芸	神戸市立勤労会館	13:00~15:00	都筑久美子	裁縫道具

※事情により日時等変更することがあります。 ※入会は随時 佐保会員以外の入会も歓迎 ※会費 年間1000円、当日のみ参加300円

平成21年度 運営委員

鈴木 久子(06-6491-9481) 寺田 翠(078-911-5364) 三枝 瑤子(078-252-2848) 川口登美子(072-793-9624)
村田 好子(0794-65-2021) 射延 瑞枝(0794-84-1998) 田中 明子(079-492-0323) 大塚かよ子(079-222-2671)

「楪の会」に参加して

大橋 節子 (S41文英)

今年の楪の会はランチコンサートから始まりました。プロで活躍中の歌手とピアノストの歌唱指導で懐かしい歌を合唱して楽しい一時を過ごしました。プロの歌と演奏を聴きながら参加者も和気藹々とおしゃべりをして贅沢を味わいました。三月は調理実習で、普段の献立の中に一味違うこと等を教わり帰宅してすぐ作って喜ばれました。四月、俳人和田悟郎氏の含蓄ある話に時の経つのを忘れるほどでした。五月は平家ゆかりの須磨寺で一絃琴の幽玄の世界を愉しむのを楽しみにしています※。
楪の会に参加して、月々の行事を学びながら会員の方々といろいろな話をしながら、とても心豊かな時間が過ごせることに感謝しています。
※十月一日に変更しました。

食文化「江戸時代の料理「草団子」」

桂 美穂子 (S46理植)

日本料理の変遷や、「江戸の料理書」から見た私たちの食卓についてのお話を伺った後、調理実習が始まりました。献立・鯛の香物酢・鯛の香の物ずし(天明五年「鯛百珍料理秘密箱」より)

苗蝦菽乳(えびとうふ、天明二年「豆腐百珍」)

よもぎ団子の合わせ味噌汁
よもぎ白玉団子

ヨモギはキク科の多年草で、カルシウム、鉄、ビタミンA、食物繊維が多く含まれています。特に、春のヨモギにはビタミンAが多いのだとか。餅(もちい)は飛鳥・奈良時代から作られ、「団子」

の名は平安後期から現れるそうです。ただ、この時代の「草餅」は母子草を用いたとお聞きしました。



ヨモギの香りに包まれて(H21.3.26)

手芸

大塚かよ子 (S44文幼)

一時間半程で簡単に作れる、巾着風の袋づくりでした。針を持つのが得手な方も、不得手な方も、楽しんでチャレンジすることができました。「もつと時間があれば…」と思いました。



袋づくりに無我夢中(H21.6.25)

平成二十年度報告

古山美智子 (S40理数)

第三十三回睦会は十一月十五日(土)暖かな一日、舞子ホテルで持つことができました。参加者の人数が四十名を切り、実行委員としてかなり考えることの多い催しになってしまいました。けれども百人一首と歌にまつわるブレゼントを組み合わせたくじ引きという遊びでおおいに盛り上がり、錆付いていた頭を働かせた一日でもありました。また写真撮影に当たった係りの者

睦会

が沢山写真を撮り、お配りしましたところ、先輩の皆さんから喜びと感謝のおたよりを沢山いただき、幹事一同先輩の皆さんの心遣いに意を強くした次第でした。しかし参加者の年齢が年々上がってきていて嬉しい反面気遣いが必要ないところが結構多くなっていくのも少し不安として残りました。

平成二十二年度担当
昭和四十二年卒業生

明石もよりの報告

野道 和子 (S50理物)

二月十一日(土)、総勢七名、明石駅すぐ東のこじんまりとした和食のお店で、掘り炬燵を囲み、釜めし定食を頂きながら、近況報告をしました。その中で、昔の思い出もお聞きしました。戦時中、米軍の爆撃を受けながらも、幼稚園を守るため活動された大先輩の経験談は、戦争を知らない私達には、大変貴重なお話でした。また、昔は、先生がお見合いの話を勧めて下さったこともあったと聞き、驚くと同時に我が母校ならではのよさを感じました。私の悩み事も聞いて頂き、励まして頂いて、感謝の気持ちでいっぱいでした。少人数ではありませんでしたが、温かい、アットホームなもよりの会のよさをつくづくと感じました。よき先輩・後輩に恵まれたことに感謝して、私も何かお役に立つことができたらと思います。

もよりの会

加古川市・高砂市・加古郡もよりの会報告

永田登喜代 (S45理数)

私達の地区では三地区の持ち回りで毎年もよりの会を開いています。その内容は先輩方から受け継いだ、「おいしい食事」と「研修」です。これまでも東播磨の伝統的な建造物である「石の宝殿」、「教信寺」、「日岡御陵」など郷土史家にお話を伺い、感銘を受けました。また、気楽な「お茶会」や、「生花でコサージュ作り」もしました。そして、今年三月十五日には高砂市の担当で「高砂市ふれあいの郷」で「ヨーガ体験会」が開かれました。講師は塩谷迪代さん(S34家食)で、色々な「アーサナ」(体操)や「呼吸法」などを理論的に教えていただき、身も心も癒されました。その後おいしい食事をいただきながら、皆で団欒。本当に楽しい春のひとときでした。これからもこの絆を大切に、もっと輪が広まることを願っています。

平成21年度 もよりの会 地区リーダー

市・町	氏名	卒業年学部	電話番号	市・町	氏名	卒業年学部	電話番号
神戸市	東灘区 平井 通恵 S47家 被 小蒲 恵子 S49理 物	079-423-0666 079-423-6606	加古川市 東播磨地区 高砂市	永田登喜代 S45理 数	079-423-5198		
	灘区 丸谷 宣子 S45家 修食 山田 登喜 S47理 化	079-423-0890 079-423-1336	播磨町 (加古郡) 稲美町 (加古郡)	田中 明子 S43文 幼	079-492-0323		
	中央区 川上ミドリ S46文 修教 兵庫区 古田貴美子 S59家 修被	079-423-7341 079-423-0901	三木市 北播磨地区 加東市 多可町 (多可郡)	射延 瑞枝 S42家 被 高階 時子 S48文 国	0794-84-1998 0795-48-2495		
	長田区 吉本由紀子 S31文 地 北区 西池 節子 S38理 数	079-423-7006 079-423-1090	西脇市 小野市 加西市				
	須磨区 光上記久子 S35文 幼 大橋 節子 S41文 英	079-423-1074 079-423-1446	姫路市 西播磨地区 相生市	名定あかね S48家 食	079-292-5186		
	垂水区 松浦 博子 S36家 食 大田奈緒美 S37理 化	079-423-1832 079-423-1000	赤穂市 たつの市	賀川 栄 S48理 数	0791-77-0322		
	西区 山中 邦子 S53文 英 新小田淑子 S59理 化	079-466-7009 079-466-0000	太子町 (揖保郡) 宍粟市 佐用町 (佐用郡)				
尼崎市 辻本 久代 S40家 食 山城 隆子 S40家 食	079-466-9111 079-466-5892	福崎町 (神崎郡) 市川町 (神崎郡) 神河町 (神崎郡)					
西宮市 田中佳世子 S40文 国 山川 泰子 S41文 国	079-466-7009 079-466-0000	豊岡市 但馬地区 朝来市	米田 純子 S40理 動	079-669-1728			
芦屋市 山崎 渺美 S39文 教 福井千佳子 S40理 化	079-466-7009 079-466-0000	養父市 新温泉町 (美方郡) 香美町 (美方郡)					
伊丹市 建林 章子 S38家 被 酒居 淑子 S42家 住	079-466-7009 079-466-0000	三田市 丹有地区 篠山市 丹波市	河野 薫子 S41理 化 小林 嘉子 S37家 被 三角三紀子 S44理 数	079-562-1730 079-552-3690 0795-70-8111			
宝塚市 吉江 順子 S35文 社 奥山 佳世 S48家 修住	079-466-7009 079-466-0000	洲本市 淡路地区 淡路市 南あわじ市	由井 弥生 S42家 被	0799-52-0515			
川西市 川田 多栄 S45家 住	079-466-7009						
猪名川町 (川辺郡)							
明石市 東播磨地区 寺田 翠 S37文 幼 乙武ヨシミ S44理 動	079-466-7009 079-466-0000						

私の奈良

母校の創立百周年にちなみ、幅広い年代の方に、奈良への思いを綴って下さるようお願いしましたところ、単なる思い出話にとどまらず、奈良での出会いが深く根を下ろし、その後の人生に生きていく様子が、数多く語られておりました。同じ学舎で学んだ私たち、このコーナーによって絆がいつそ深まることを願っています。

阿修羅像

阿修羅像の怒りの面輪に惹かれゆく十六才のわれなりしかな
永き永き刻をさざみて阿修羅像の怒りの相にまみえんと来し
奈良恋し嫩草山も佐保川もはた遠き日の若きわたしも

川口 汐子 (S19文)

戦時下の学生時代

三木 敏子 (S20家)

奈良女高師を卒業して六十余年、娘も同じ女子大に入り、親子二代の関係でひとしおなつかしいです。

当時私は旧制の女学校から進学し、郡部の学校は四年制で、五年制の都会出身者が大半の中で背伸びをしていました。先輩は一人もなく心細い思いをしていました。学校は偉い先生方に二十数人で勉強し、実習はよく理解出来る有難かったです。ただ、英語が早く廻って、スラスラ読むのが苦手で、早朝運動場のスロープのベンチで声を出して稽古していました。三年になり敵性語で随意科になり、悩みは解決しました。

寄宿舎は全寮制で順番に炊事当番をし、大変勉強になりました。入舎時に憲法発布があり、「四年生は神聖にして犯すべからず」云々のきびしい規則

で、上級生を敬い絶対服従で、一年生は茶坊主と云われ雑用係は大変でした。六時起床十時就寝の生活は、テストの時や被服提出前には食堂で起きて頑張ったのも懐かしい思い出です。しかし、戦況がきびしくなり、食料の配給の玄米食で多くの人が下痢をし、栄養不良で病気になる休学する人も出ました。奈良坂の開墾や出征兵士の家に農繁期の手伝いにも行きました。

私達の学年の特筆する事は、三年生の昭和十九年十一月に学徒動員令で舞鶴の海軍工廠に行った事です。山陰特有の雨のよく降る季節で、大きなゴム長靴が配給になり常時履いていました。身体検査で元気な人は、文科は製缶、理科は機械、家政科は組立の工場で兵器を作り、他の人は器材工場などの事務をしました。雨はそのうち雪になり、寮は暖房も無く寒かったです。九ヶ月後の昭和二十年七月末日、教生をする

ため解除になり奈良に帰りました。

八月十五日は、講堂で終戦の詔勅を聞き、進駐軍が来るのですぐに帰宅せよと言われ、皆自宅に帰りました。九月十日始業式の通知が来て奈良に行き、九月末日繰上卒業をしました。勤めだして一年経った夏休みに学校が一週間の補講をして下さいましたが、同期生が集まると、一番大事な四年時に勉強出来なくて残念だと云います。でも、女高師の根性ある魂だけは立派に頂きました。

家庭の事情で勤めを辞める時、担任の波多腰先生に挨拶に行き、その時娘(幼稚園入園時)も連れて行き、学校を見せて「大きくなったら頑張って入ってね」と話しました。十年後再就職しましたが、同窓生の方々がおられ心強かったです。その後、娘が勤めていますので、孫の世話をし、今は朝は手伝いに行っています。



英語の藤井先生を囲んで(S19 筆者は前列左端)

生物学を志した出発点

長田久美子 (S39理生)

私は、昭和三十九年奈良女子大学の植物学専攻を卒業しました。

その当時生物学は、分子化学的に探求するという態度が弱く、植物の名前をおぼえてそれを分類するという博物学が主であったように思います。植物学の実習では、菅沼先生の下、奈良公園や奈良奥山の原生林に入り、種々の植物を採取し、匂いを嗅いだりしてその種名をおぼえ、教室に持ち帰ってスケッチもしました。そのため多くの植物の印象が深く残っています。奈良公園は、カシ、シイやイチヨウなどの巨木が多く、また独特の植物相を形成しています。奈良公園には千頭以上鹿がいて主にシバを食べ、アセビやナギは鹿が苦手なため食べられないこともなくのびのび育っています。シバを食べる鹿は、シバの種子散布の役割をしており、また鹿の糞をコガネムシ(糞虫)が分解して、シバを育てているという。そのため、奈良公園は、人が手を入れなくても常にシバが茂っています。

私は奈良女を卒業後、分子生物学に憧れ、阪大の大学院に入学し学位を得ました。そして長年、兵庫医科大学で種々の微生物について研究、教育を行って来ました。現在は千里金蘭大学で微生物の講義を続けています。国内をはじめ外国も三十以上の国を訪れましたが、訪問先では、すぐ目に飛び込んでくるのが植物です。新しい土地ではその植物をみて親しみを覚えてきたように思います。

いままでに、植物が私の「心の物差し」としてしみついているのは、奈良で植物を観察し学んだ体験のたまものではないかと思っています。



生涯の師との出会い

田中 洋子 (S44家食)

三年の冬、ゼミをどうしようかと悩んでいる時、新しく家庭経営ゼミができました。

「ちよっと、どんな先生か話を聞きにいこか！」これが山内先生との出会いでした。

一 「何がしたい？」

いきなりの質問にあわてた私は「なぜ牛肉が高いか、知りたいです。」と答えました。目的をもつことの大切さを教わった一言でした。

二 「君だから」

卒論の調査で神戸の卸売市場を訪ね、資料をいただいて研究室に行くと、「すごいねえ！僕らが行ってもここまで教えてくれないよ。君だからだよ！」私だから教えてもらえたわけではないと思うのですが、その時の私には「やればできる」と意欲を喚起させる褒め言葉でした。

三 「わかった？」

毎回講義の後で研究室に行くと「わかった？」と聞かれました。謙虚な先生の姿から自分を振り返ることの大切さを教わった一言でした。

山内先生のような教師になりたいと四十年努めてきましたが、何の恩返しもできないうちに、一月にお亡くなりになりました。

山内先生のご冥福をお祈りいたします。



奈良は出発点

本多三洋子 (S52家住)

仕事で奈良に出張した時、思い立って二月堂、戒壇院を巡り、寮と大学の正門周辺から近鉄駅へと散策しました。卒業以来、仕事と子育てに突っ走っている日々から解放され、二十数年ぶりに二月堂へ。市街地を見下ろしていると、学生時代にタイムスリップ。厳しかった恩師のご指導がよみがえってきました。

卒論で市場調査にご一緒して頂いた翌日、何のご報告もしなかった私達に「後日、指導した先生に、お礼」を言っておくものですよ」と。また、夏休みあけの登校時「帰郷する前に卒論指導の先生に、挨拶、しておくもの」と注意を受けたのです。

現在、職場で「出張、研修参加の翌日には、まず、口頭で報告を」、「長期休暇取得前には挨拶を」とたしなめている私があります。不思議と、職場の雰囲気にもメリハリができ、仕事の流れもスムーズになっています。

恩師のように注意して下さる人はそういません。あの時の、ひとことは社会に出発する者への気遣いだったのです。

奈良も様変わりしつつありますが、青春時代そのままの風景に巡り会えます。何ともいえない、新鮮な気持ちになります。奈良は初心に戻る出発点。さあ、気分を変えてもう一度スタートです。



母から受け継ぐ奈良女魂

富山 和子 (S53家住)

現在西播磨の龍野高校(母校)で、家庭科教師として働いています。母も同じく奈良女高師を卒業し、家庭科教師として高校に勤めていました。

小さい頃から母より、女高師の受験がいかに大変であったかを聞かされてきましたので、奈良女子大学は歴史と伝統があり、入学するためには高い学

力が必要であるということは知っていましたが、また、子どもの頃一度大学に連れて行ってもらったことがあります。その当時は、長く続く廊下がなぜか印象に残っています。大学受験にあたり、奈良女を受験することに決めたのも、母から聞かされていた大学への憧れがあったためだと思います。進学が決まり、下宿を探す時に母が奈良の町をよく知っており、奈良在住のかつての級友へ連絡をしてくれ、大変心強かったことを覚えています。

私が大学へ入ったときは、記念館で入学式がありました。学友はみんな真面目で、勤勉であり、女子大特有のやさしさもあり、大学入試のための勉強から解放され、のびのびと大学生活を送りました。所属していた住居学科では、春の歓迎遠足で当麻寺に行ったり、徹夜で設計課題を完成させたこと、学科全体で行ったクリスマスコンパ等が印象に残っています。学科の人数が少ないため、アットホームな雰囲気です。四年間を過ごしました。昨年卒業三周年記念の大同窓会に出席させていただいたのですが、なつかしき学友と大学時代に戻って語りあいました。

現在高校で進路指導をしている時、奈良女子大学を受験する生徒がいるときはとてもうれしくて必ず合格できるように応援しています。現在龍野高校からは生活環境学科へ二人が進学しています。私は定年退職まで六年となりましたが、今年教員免許状の更新の年にあたってしまった、選択講習を母校では非受講したいと思いい、現在申し込み中

です。もし受講できたら、二日間だけです。奈良女子大生にもどって勉強したいと思っています。



講座の人たちと(大学4年 筆者は後列右から三番目)

二十数年ぶりの応援歌

富士原朝恵 (S59家住)

昨年の夏、二十数年ぶりに奈良女の正門をくぐった。

働きながら大学院で学んでいる同級生と再会し、メニューが多様になった学食で食事していると、卒業後の四半世紀が夢か現実かわからなくなる。だが、同じ時間を共有した学生時代にタイムスリップした数時間後には、私達はエールを送り合って、それぞれの生活に戻って行った。

いつの日か、将来の夫や子供たちを訪れたいと思っていた奈良。その願いは果たせていないが、懐かしい風景が「おかえりなさい。社会人になってか

ら色々な事があったと思うけれど、もうひと頑張りして、また訪ねておいで。」と語りかけてくれた気がした。

四年間の大阪での教員生活、半年間のイギリスでの暮らし、民間勤務、退職、結婚、出産。そして、娘の出産と同時にシングルマザーの道を選んで十六年。

今は男子校で再び家庭科の教師として教壇に立つ機会に恵まれている。そして、生徒達が巣立ちの時を迎えるたびに、その成長と未来への可能性を眩しい思いで見つめながら、よき出会いを重ねて笑顔の絶えない日々を送ってほしいと願っている。

最後になりましたが、在学中から現在に至るまで、私に多くの励ましや楽しみを与えてくれた奈良女の同窓生の皆様に、この場を借りて感謝いたします。



(S61文園 岸佳子さん撮影)

奈良女学園祭

二十三年ぶりの大学

井上伊都子 (S61文英)

四月末、ふらりと奈良に行った。近鉄奈良駅を出ると、奈良公園へと足速に歩いた。絶好の行楽日和を満喫しながら、ゆっくり進む観光客をどんどん

追い抜いた。私は彼らとは違う。地図もカメラも持っていない。あまりに親しんだ風景の中で、私は心理的にその住人になっていた。彼らはお客さんで、私は奈良の人、そんなふうを感じた。実は私も観光客である。しかし、私は日常の用事を済ませようと目的地に直行する生活者であった。

午後、奈良女子大学へと向かった。二十三年ぶりに見る大学は若返ったようだった。正門と記念館が新しく塗られ、強い日差しに輝いていた。背後の寮も様変わりしていた。キャンパスを歩いた。文学部南棟以外は新しい建物になっていた。一階の教室で授業が行われているのが見えた。何人もの学生と擦れ違った。私は次の教室に向かう学生のような気がしてきた。彼女たちと私の友人の姿が重なった。私は彼女たちの仲間だ。彼女たちは私に全く気付かない。外来者が持つ違和感、観光客が地元の人に与える印象が私にはないのだから。

奈良公園も大学も町並みも、細かい点を取り上げれば変わっていた。しかし、私の心は若い時に見ていた風景の中に今の姿を組み入れて解釈した。人は、住んでいる町の変化にそのように対応して生活している。私の心はいつまでも奈良の住人である。

奈良での出会い

山本紀代美 (H6家住)

先日、「奈良女ってどんなところですか?」とある生徒に聞かれました。思わず、「良い所だよ。行って後悔は絶対しないと思うよ。」私は今、故郷に戻って高校で家庭科教師をしています。早いもので今年で十六年目になります。今年のセンター試験を終えて、受験校を迷っていた生徒が母校について、尋ねてきました。私は、大学の頃の思い出をたくさん語りました。今でも思い出します。田舎で育った私は、憧れの大学生活、少し不安を抱きながらも期待に胸を膨らませて迎えた入学式、そして四年間の大学生活は、何もかもが新鮮で刺激的で充実した日々でした。その後、生徒は、我が母校を受験する決心をし、見事合格、進学することになりました。私は後輩ができたことを、とても嬉しく思いました。きつと今頃、少し大学生活にも慣れ、あの記念館の前を毎日通っているのでしょうか。充実した大学生活を送ってくださることを願っています。

私にとって「奈良」とは、人生で掛け替えのない多くの出会いの場でありました。素晴らしい友との出会い、恩師との出会い、人生の学び、若草山の美しい四季の移り変わり。これらの出会いが今の私の大きな心の支えとなっています。

創立百周年を迎えた母校に感謝するとともに、これからも掛け替えのない出会いの場となることを心より願っています。



心安らぐ第二の故郷

赤松 宏美 (H15文欧米)

私は、平成十一年度に奈良女子大学に入学しました。知り合いもなく、初めての一人暮らしで不安と期待を胸に入学式を迎えましたが、すぐに友人もでき、四年間楽しく大学生活を送ることができました。

落ち着いた奈良の雰囲気魅せられ休日になると自転車でお良町散策や寺社巡りをしながら奈良の歴史や文化に触れ、いつも心が穏やかになった記憶があります。

たくさんの思い出が詰まった奈良は、私にとってとても大切な第二の故郷です。去年は大学時代の友人と一泊二日の奈良旅行を計画し、母校を訪れて学生時代を懐かしく振り返ることができ、奈良の素晴らしさをあらためて実感することができました。

近年はドラマや映画の撮影の誘致が積極的に行われ、また、来年は平城遷都千三百年を迎えることもあり、奈良がたくさんの方に注目されて嬉しく思っています。

私も、学生時代は観光客の多い時期はアルバイトが忙しく、お水取りや若草山の山焼きなどの一大イベントをゆつくり楽しむことができなかったので、



卒業後も定期的に奈良を訪れてさらに深く奈良の魅力を感じていきたいと思っています。



友人と母校訪問 (H20 筆者は左端)

自分の原点を築いた場所

藤井 祥子 (H20博前理化)

私は大学入学から大学院修了まで六年間を奈良で過ごしました。今回、この原稿を書くにあたり、様々な出来事を思い起こしておりますと、私の礎を築いた六年間であったと改めて感じました。

まずは人との出会いです。本当に素晴らしい友人に恵まれ、彼女たちの存在が今の自分を創り上げてくれたと言っても過言ではありません。共に勉強したり、語り明かしたり、奈良の長閑な自然の中を散歩したり…。本当に多くの時間を共有する中で、何かあるとすぐに頭に顔が浮かんでしまうほどの存在になっていきました。それは今尚変わることなく、一生の友達としてこう

作品解説

「1936年頃、満洲国撫順市西公園2-6にて、
白い靴下を穿いた12歳頃の母と12歳の私」

笠木 絵津子 (S50理物/S52院理物)

この長いフレーズは、表紙作品のタイトルである。この作品は、私のコンピュータ加工写真シリーズ「私の知らない母 - ふたつの時間を持つ写真」の中のひとつで、12歳頃の母が写る古い家族写真を手に実際にその場所を訪ねた時の脳内光景を作品化したものである。作中に織り込まれた戦前の撫順日本人街の街並みは、写真集「望郷満洲」(国書刊行会)掲載の写真を引用している。この作品は、07年に川崎市岡本太郎美術館で展示、本来の大きさは343cm×490cmとシリーズ中最も大きい。

このシリーズは、98年に母が亡くなってから始め、07年に終了した。新シリーズ第一作は、現在「神戸ビエンナーレ2009」兵庫県立美術館会場で招待展示させていただいている。08年に訪問した満州事変の都市をテーマに大型三次元作品を展開している。会期は11月23日まで、多くの皆様にご観覧いただければと願っている。

<http://www.kobe-biennale.jp/kikaku/link/index.html>

笠木絵津子：現代美術家。本名、前田政子。兵庫県姫路市出身、横浜市在住。77年物理修士修了。92年ニューヨーク大学芸術修士修了。94年スーパーカミオカンデにてインスタレーション実施。02年より平塚市美術館、ソウル日本大使館、ニコンサロン、姫路市民ギャラリー等で「私の知らない母」シリーズを発表。06年岡本太郎現代芸術賞入選。07年姫路市芸術年度賞受賞。作品は姫路市立美術館等に収蔵。

<http://kasagi-etsuko.jp/>

いう存在なのではと気付かされました。そして、今の生活にも繋がっている。研究生活です。学部での授業から研究室生活に至るまで、少人数であるが故、行き届いた教育を受けることができた。何事も傍観することなく自分主体で行い、指導も丁寧を受けることができましたので、しっかりと自分のものですることができると環境であったと言えます。今でも大学で学んだ手法を思い出しながらやっているほどです。

このように私の核となった奈良での生活は人生における財産となりました。時折奈良に戻り、充電できればと思います。



〔さし絵〕盛林礼子 (S53文史)

研究生活を送った研究棟

西播磨ひとめぐり

西播磨地区は、姫路市・たつの市・相生市・赤穂市・宍粟市と、神崎郡・揖保郡・赤穂郡・佐用郡からなる広い地域です。そこには自然と文化を育んだ四つの大河、市川・夢前川・揖保川・千種川が流れています。

太古の昔から、人々が暮らしていた西播磨の地。さまざまな形で残されている史跡を、ゆかりの人物を取り上げ、紹介していきたいと思えます。播磨の国の神から民俗学の父まで、歴史を彩る人物絵巻をお楽しみ下さい。

【伊和大神】

伊和神社（宍粟市一宮町）

『播磨国風土記』で、播磨土着の神として大いに活躍する伊和大神。式内社とされる伊和神社（写真）は、大己貴命・少彦名命・下照姫命を祭神としていますが、『風土記』には、新羅の王子、天日槍と争い、打ち勝った伊和大神を「播磨の国造りの神」として祀ったと記されています。

播磨国の一宮として崇敬され、今も森厳な雰囲気漂わせている伊和神社。

一つ山・三ツ山祭礼は、総社となった射

楯兵主神社（姫路市）へも移植され、二十一年・六十年に一度の特殊神



事として注目されています。『風土記』の記事などから、伊和大神を奉じたのは揖保川流域の宍粟郡を本拠とした伊和君とされ、その勢力は揖保郡・佐用郡に広がり、後に飾磨郡にその中心が移ったとか。伊和神社周辺では、遺跡や古墳の発掘も行われました。

交通手段

神姫バス一の宮伊和神社
バス停下車（姫路駅より山崎曲里・戸倉行乗り換え）

【野見宿禰】

野見宿禰の墓（たつの市龍野町）

出雲の国から召し出され、並ぶ者のない勇士、当麻蹴速を打ち負かした野見宿禰。"相撲の祖"として有名ですが、"壇輪の祖"でもあります。

【日本書紀】

によれば、垂仁天皇の后が亡くなった時、殉死の風習を愁う天皇に、土人形を代わりに埋めることを提案。これが壇輪の起りであり、宿禰は喜んだ天皇から「土師部」の姓を賜りました。

『播磨国風土記』には、この心優しい英雄が播磨の野で病死し、出雲から来た人々が立ち並んで、河原の石を手から手へ運び、墓を作った話が載っています。「立野（龍野）」の地名は、そこから生まれました。野見宿禰の墓（写



真は、明治時代に整備されたもので、玉垣には当時の有力力士らの名前が刻まれています。周辺には霞園亭など見所が多く、城下町散策も楽しめます。

交通手段

姫新線本竜野駅よりタクシードで龍野神社、徒歩10分

【聖徳太子】

斑鳩寺（揖保郡太子町）

用明天皇の皇子、聖徳太子は伯母推古天皇の摂政として活躍、特に仏教の興隆に力を尽くしました。中世法隆寺の主な庄園だった斑鳩庄は、太子の仏典の講義を聴いて感激した推古天皇が寄進したと伝えられ、その中心にあるのが斑鳩寺です。法隆寺の別院として建立されたという同寺は、地元の人々から「お太子さん」と親しまれ、太子の縁日法要として営まれる春の太子会式は植木市などにぎわっています。

講堂の三尊や三重の塔（写真）などは、国の重要文化財。太子町内には斑鳩の境界を示すという「傍示石」があり、「聖徳太子の投げ石」とも呼ばれています。鶴林寺（加古川市）をはじめ、播磨には太子ゆかりの寺が少なくありません。斑鳩寺・鶴林寺には、太子の毛髪を植えたとされる、「植髪の太子」という珍しい像が伝わっています。

交通手段

神姫バス鶴バス停下車



【秦河勝】

大避神社（赤穂市坂越）

渡来系氏族の中でも最大の規模を誇る秦氏、そのシンボルというべき存在が秦河勝です。『日本書紀』には、

「常世の虫」を祀る異教の徒をこらしめたことが記されています。物部守屋との戦いで聖徳太子の軍師的役割を果たした、太子が河勝に申楽を習わせた等の伝承も有名。

世阿弥の「風姿花伝」によると、河勝は難波浦から「うつぼ舟」に乗せられて坂越浦に漂着。大いに崇りをなしたので神に祀ると、国が豊かに治まったとか。これが大避神社の始まりで、坂越浦に浮かぶ生島には、「秦河勝の墓」とされる古墳と大避神社のお旅所（写真）があります。生島への船渡御が行われる10月の船祭りは、民俗学的にも貴重。かつて廻船業で栄えた坂越の街並みは風情があり、藩主が船祭りを見学した会所なども残っています。

交通手段

播州赤穂線坂越駅



【性空上人】

書写山円教寺（姫路市書写）

性空上人は京都の貴族の家に生まれましたが、左手に針を握って生まれる等、幼少の時から不思議なエピソードに包まれていました。27歳で元服、36歳で出家。九州の山々で修行を重ね、

57歳の時、瑞雲に導かれて書写山にや
つてきたと伝えられます。

やがて、「播磨の聖」の名は都にまで
届き、花山法皇は二度も性空のもとを
訪れました。開山堂の性空像は、花山
法皇が描かせた肖像画をもとに造られ
たとか。西国巡礼でにぎわう摩尼殿の
奥にある「三つの堂」(写真、そして「奥
の院」の静かな佇まいに、性空の人柄
が偲ばれます。なお、修正会の赤鬼・青
鬼は、性空に付き従っていた護法童子
「乙天」「若天」。

その子孫とさ
れる人々が、
鬼役を務めて
います。また、
性空の飼犬
を祀ったとい
う犬塚のある
広畑区才から、
鏡餅が奉納さ
れます。



交通手段 神姫バス書写ロープウ
エイ行き終下車、書写
山ロープウェイ

【和泉式部】

和泉式部旧跡(相生市若狭野)

性空上人を慕って書写山を訪ねたと
されるのが、情熱の女流歌人として知
られる和泉式部。主人の上東門院とと
もに円教寺まできましたが、性空は「鬼
が来る」と雲隠れ。が、去り際に式部
が詠んだ和歌に感心して一行を呼び戻
し、仏の教えを説いたとか。奥の院に
”和泉式部の歌塚”が立っています。
この伝承の故か、播磨各地に、和泉式
部にまつわる史跡が残っています。

若狭野の雨
内にある教証
寺の記録によ
ると、和泉式
部はこの村の
栗の木の下で
雨宿りし、歌
を詠んだ後、
五郎大夫家に
宿泊。偶然に
も、その家の
娘は式部が捨てた子供で、和歌が結ぶ
縁によって親子は再会を果たしたとか。
雨内には五郎大夫の屋敷跡があり、雨
宿りの場所に石碑(写真)が立っていま
す。「宿り木の栗」を植え継いだとい
う木は、得乗寺(相生市那波)に現存。



交通手段 山陽線相生駅より、神姫
バス宮ノ尾バス停下車

【安倍晴明】

いぶし晴明塚宝篋印塔(佐用郡佐用町)

小説や漫画、映画にもなり、「陰陽
師」を二躍有名にした安倍晴明。「今昔
物語」をはじめ、さまざまな説話集に、
百鬼夜行を見たり、瓜の中の毒蛇を見
抜いたり、花山天皇の退位を予見した
りと、その超人ぶりが記されています。
藤原道長に仕
え、陰陽寮の長
官を務め、子
孫は「十御門家」
として明治ま
で陰陽師達を
支配しました。
その晴明の
好敵手として
知られるのが、



民間陰陽師、芦屋道満です。都で活躍
しますが、道長への呪詛を晴明に見破
られ、生国播磨へ流されて、一生を終
えたとか。各地に道満の伝承が残り、
佐用の乙大木谷にも、「道満塚」と呼
ばれる宝篋印塔が立っています。谷を
挟んだ甲大木谷には、「晴明塚」と呼
ばれる宝篋印塔(写真)。室町時代の優
品で、傍らに晴明堂があり、今も大切
に祀られています。

交通手段 姫新線佐用駅よりタクシー
(約20分、駅前に役場があ
るので場所の確認を)

【柳田国男】

生家と顕彰記念館

(神崎郡福崎町)

「民俗学の父」と呼ばれる
柳田国男は、福崎町辻川生
まれ。「故郷七十年」にそ
の思い出を書いています。が、
漢文学者松岡操の六男に生
まれ、柳田家の養子となり
ました。兄弟には、国文学
者で歌人の井上通泰、日本
画家の松岡映丘らがいます。
一家が辻川にいたのは国男
が9歳の時までですが、国
男は一年間大庄屋だった三
木家に預けられ、和漢の書
籍を乱読しました。三木家
住宅は、県指定文化財とし
て保存。
「日本一小さい家」「自ら
の民俗学の原点」という生
家(写真は、幼い頃遊んだ
氏神さん、鈴ヶ森神社の傍
らに移築されています。柳

田国男・松岡
家顕彰記念館
が隣接して建
てられ、その
奥には旧神崎
郡役所を利用
した神崎郡歴
史民俗資料館
があります。
周辺には、鬼
追いの思い出を書いている神積寺など、
多くの見所があります。

交通手段 播但線福崎駅(神姫バス
なら辻川バス停下車)

【小栗栖真弓(S53文史/S55院文)】



不審な問い合わせ・郵便物にご注意ください！

このたび、「人事新報社」という会社から、「奈良女子大学同窓会名簿」に掲載する調査カードが送られてきたとのご連絡を多くの佐保会員からいただきました。

この会社は、同窓会佐保会とは全く関係がない会社であり、また佐保会は、「佐保会における個人情報保護規定」に基づき、他の会社に名簿管理等を委託することは一切ございません。

「人事新報社」から返信の催促があったり、代金の振り込みをお願いする内容の案内が届いたりすることもあるようですが、返信したり代金を振り込んだりする義務は一切ございません。

「人事新報社」に関しては、すでに奈良女子大学のホームページ上で同様の注意を呼びかけておりますので、くれぐれもご注意ください。

平成21年3月9日 社団法人佐保会

平成21年度 佐保会兵庫県支部役員

役職名	氏名	卒業年学部学科	住所	
支部長	山本よしみ	S33家食	神戸市西区	
副支部長	永田登喜代	S45理数	加古川市	
事務局	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区	
	村田 好子	S39家食	小野市	
	古山美智子	S40理数	神戸市西区	
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市	
標の会	寺田 翠	S37文幼	明石市	
	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区	
	川口登美子	S39家食	川西市	
	村田 好子	S39家食	小野市	
	射延 瑞枝	S42家被	三木市	
	田中 明子	S43文幼	加古郡稲美町	
	大塚かよ子	S44文幼	姫路市	
	HP研究会 (佐保会からリンク)	中村 京子	S32理物	神戸市東灘区
		鈴木 久子	S37家食	尼崎市
		藤岡 利子	S38家被	尼崎市
桂 美穂子		S46理植	姫路市	
吉野 京子		S47家住	姫路市	
高階 時子		S48文国	加東市	
会計監査	實方 充代	S32文幼	尼崎市	
	藤岡 利子	S38家被	尼崎市	
本部理事	貴田 康乃	S29家住	西宮市	
本部監事	瀬川 順子	S41文英	神戸市中央区	
	酒居 淑子	S42家住	伊丹市	
本部評議員	山本よしみ	S33家食	神戸市西区	
	鈴木 久子	S37家食	尼崎市	
	三枝 瑤子	S38文英	神戸市中央区	
	川口登美子	S39家食	川西市	
大学女性協会	大林 冷子	S33家被	尼崎市	
	唐島 幸子	S43文英	芦屋市	

*「支部だより」第34号 尼崎市担当

年度	発行日	担当
平成20年度	4月3日(水)	支部役員会
平成20年度	5月10日(土)	支部総会(於、舞子ピラ神戸)
平成20年度	8月23日(土)	地区リーダー会
平成20年度	11月1日(土)	第32号「支部だより」(名簿)発行 (加古川市、高砂市、加古郡担当)
平成21年度	11月15日(土)	「睦会」(於、舞子ホテル、昭和40年卒業生担当)
平成21年度	1月8日(木)	支部だより引き継ぎ会
平成21年度	4月1日(水)	支部役員会
平成21年度	5月9日(土)	支部総会(於、楠公会館)
平成21年度	8月27日(木)	地区リーダー会
平成21年度	11月1日(日)	第33号「支部だより」発行(西播磨地区担当)
平成21年度	11月14日(土)	「睦会」(於、舞子ホテル、昭和41年卒業生担当)
平成21年度	1月9日(土)	支部だより引き継ぎ会

事務局だより

平成20年度会計報告並びに平成21年度会計予算

支出の部

科目名	平成20年度決算	平成21年度予算	
本部会費	880,500	900,000	
総会補助費	129,028	150,000	
通信費	222,670	250,000	
印刷費	26,985	60,000	
交通費	94,910	80,000	
事業費	名簿印刷費(積立)	472,500	0
	名簿送料	500	0
	支部便り印刷費	200,000	200,000
	睦会補助	50,000	50,000
	標の会	70,000	70,000
	ホームページ研究会	-	70,000
	リーダー会経費	55,409	70,000
	最寄会補助	108,000	110,000
慶弔費	132,132	100,000	
事務費	117,755	160,000	
予備費	100,000	90,000	
小計	2,660,389	2,360,000	
次年度繰越	4,079,670	4,079,672	
合計	6,740,059	6,439,672	

収入の部

科目名	平成20年度決算	平成21年度予算
会費	2,199,500	2,200,000
内訳	本部会費	880,500
	支部会費	1,319,000
貯金利息	301	2
本部より補助	67,900	60,000
雑収入	500,000	100,000
寄付	400	0
小計	2,768,101	2,360,002
前年度繰越	3,971,958	4,079,670
合計	6,740,059	6,439,672

※注... H16(19年度)に積立てられた名簿印刷積立金500,000円を雑収入とする。

編集後記

かつてない経済不況の中、奈良女子大学が創立百周年を迎えた年に、西播磨地区が「支部だより」の編集に携わり、大変思い出深い一年となりました。

力を合わせて一つの目標に向け考え、行動するという充実感、又、多くの方々に突然協力をお願いしたにも拘わらず、快くきちんと受けて下さった時の安心感。いずれも得がたい経験をさせていただき、強い“絆”を感じた一年でした。本当に感謝です。同窓会員が多くなると共に、その活動に無関心の会員が増えるのではないかと心配されますが、細々とでも「もより会」のような活動を続けていくことは意味のあることだと思います。編集委員一同、心よりお礼申し上げます。不備な点もあるかと思いますが、またどこかでご感想などお聞かせいただければ幸いです。(畑岡記)

〔編集委員：出田、大塚、小栗栖、賀川、桂、高馬、杉本、名定、畑岡、福永、吉井、吉野〕

資産内訳 (平成21年3月31日現在)

定額郵便貯金	2,350,000円
郵便貯金	10,752円
振替貯金	1,581,949円
現金	136,969円
合計	4,079,670円
予備費定額貯金	100,000円